

## 篤心会 会派視察報告書

期 日：令和4年10月13日（木）・14日（金）

会 場：出島メッセ長崎（長崎県長崎市）

提出者：永田 起也

### 第84回全国都市問題会議 個性を生かして「選ばれる」まちづくり ～何度も訪れたい場所になるために～

◎第1日 10月13日（木）

○基調講演 民間主導の地域創生の重要性

【講 師】株式会社ジャパネットホールディングス代表取締役社長兼 CEO 高田 旭人 氏

言わずと知れた通信販売のジャパネットたかた。先代社長は長崎の小さなカメラ店からスタートして現在、息子である旭人氏が受け継いでいる。

2017年長崎のプロサッカークラブ「V・ファーレン長崎」の運営を始めたことをきっかけに地域を盛り上げていきたいと想いが強くなった。

ジャパネットグループでは、通信販売事業に並ぶ2本目の柱としてスポーツ・地域創生事業を掲げている。2020年に長崎初のプロバスケットボールクラブを立ち上げ運営し、長崎駅前にスタジアム・アリーナや商業施設、ホテル等で構成するまちづくり「長崎スタジアムシティプロジェクト」を進め2024年の開業を目指している。

・行政と民間の役割の違いについて

行政は、皆が平等公平に恩恵を受けられるように環境づくりをしていくが、民間企業では「幸福の最大化」としており、社会全体における幸せの総量を増やすことができる。スタジアムを見せる見渡せるVIP席は価値こそ高価なものかもしれないが、そこで素晴らしいサービスを提供することができるし、VIP席で収益を確保できることでゴール裏席は、臨場感を感じながら応援できる比較的安価な席にすることができるようになる。公平性に左右されない民間だからこそ行政にできない思い切ったことが必要。

・長崎スタジアムシティプロジェクトへの想いと目指すところ

長崎は転出超過が続いているが、長崎には路面電車や路線バスなど交通網が発達し、カステラやちゃんぽんなど、非常に魅力的なまちである。磨きをかけることによって輝きは増し、それらに工夫を凝らしながら伝えていくことで、「長崎は楽しそう」「行ってみたい」と思ってもらえると考えている。

・長崎スタジアムシティプロジェクトで実行するアイデア集

1. 荷物の持ち込み禁止しロッカールーム（ICT連動）を配置
2. 試合後の出庫時間に応じ駐車料金を変える。試合だけでなく、スタジアムシティ全体を楽

しませる

3. スタジオ・アリーナを活用し賃貸面積が少なくても快適なオフィスを実現
4. 年間シート購入者には高速 Wifi を提供
5. 商業施設の使用ターゲットを昼夜で変えて稼働率を上げる
6. スタジアム非稼働日の演出を工夫する
7. スタジアムのVIPルームは、試合がない日はスタジアムが望めるホテルとして活用
8. 美味しいビールをつくることで車の交通量を減らし、渋滞緩和を狙う
9. 試合前後にスタジアムで楽しめるサッカー・バスケットの特集番組をつくり、スタジアム内で放送
10. 語学とスポーツを両方同時に学べるスクールを開設する
11. 長崎大学大学院を誘致し、オフィスへ入居する企業との交流を促進する

・行政に期待すること

行政は企業のアシストとなってほしい。行政だからできること、民間だからできること、官民、地域住民と連携し、手を取り合いながら、長崎をはじめ、地域全体の幸福の総量を増やしていきたい。

○主報告 長崎市の魅力あるまちづくり

【報告者】長崎県長崎市長 田上 富久 氏

・長崎市の総面積 405.86 k m<sup>2</sup>、人口は約 40 万人の中核市だが町はほとんど埋立地との紹介。第二次世界大戦では広島に続き原子爆弾による惨禍を被った。核兵器廃絶と世界恒久平和を訴える国際平和文化都市としての役割を果たしている。長崎市の交流の歴史として、約 450 年前の開港から現在まで、港を通じて国内外からもたくさんの人々との交流や文化も取り入れ「貿易都市」として栄えてきた。

・ネットワークコンパクトシティを目指す。新幹線の開通、港の拡張により「交流により栄えるまち“長崎”」として、昭和の観光地から 21 世紀の交流都市へ。

観光まちづくりのパートナー 事業者—長崎市—市民—訪問者 winwin の関係

・わがまちの価値とは

価値を見つける—気付いていないが持っている価値があるのでは？2021 年 10 月に開業した長崎市恐竜博物館は「価値を見つけた」事例の一つ（長崎半島から恐竜の化石が発見されたことが機となった）

また昭和 49 年に閉山した軍艦島

モナコのまちが参考にもなった。世界の富豪が集まる。安全性も高い。

↑そのまちの特徴（個性）を活かしたまちづくり

- ・価値に気付く

平成25年に景観専門監制度の導入

長崎駅周辺整備事業（なべやかん山展望台）や出島表門橋の架橋などの大型事業や市内各地の公園や道路や建物などの整備・改修を進めてきた。

- ・価値を生み出す

ジャパネットホールディングスの長崎スタジアムシティプロジェクト

長崎大学が進めるBSL-4（バイオセーフティレベル）2021年7月に竣工 最先端の感染症研究が進むことで国際的な貢献への寄与とともに、新たな価値をもたらす。

長崎市では価値を見つめ直しており、まちの価値に気付く契機は「交流」が欠かせない。地域課題が資源となる発想の転換「例. さかのうえん」のもと、新たな価値が見つかり、磨かれ、まちの価値が創られていく。

○一般報告 何度も訪れたい場所～都市の新たな魅力と関係人口～

【報告者】島根県立大学地域政策学部准教授 田中 輝美 氏

関係人口とは、短期間の交流や観光というかかわり方ではなく長期間暮らし続けるという定住という関わり方でもない。その間にある新しい地域との関わり方をいう。

- ・過疎地対策（事例）・もちがせ週末住民の家鳥取市、島根県雲南市草刈り応援隊、廃墟駅のライトアップ（イルミネーション）イベント（流しそうめん）

- ・若い人が集まるヒント①名前が覚えられる規模（量より質）②準備から片付け、打ち上げまで一緒に（脱・お客様）③住民の想いや背景も伝える（ストリート化）

- ・背景にある2つの変化

地域の文化+若い世代の変化=新しい潮流 人口が減少したことで開放性を持つ

- ・東京で起こっていること=ふるさと難民 近所に顔見知りがいなくて愛着が持てない

- ・つながりこそが価値であり資源となる 関係人口ー（旅と移住の間）

- ・繰り広げられる移住・定住合戦 住めばお得になるような奪い合いでは限界があるし良くならない。

- ・関係人口を増やす施策 交流・観光（短期）、関係人口（中期）、移住・定住（長期）の三本柱

- ・関係人口の関わりパターン（買う・行く・働く）

- ・おてつたび（全国各地）HP 空き家リノベーション リトル福岡（東京で福岡）

- ・よそ者で何ができるか？①地域の再発見 ②誇りの相乗効果 ③知識移転の効果など

- ・ゼロから無理やり「創出」をしなくてもいい

- ・Wifiがないところには若い人は来ない

- ・地域（都市=個性）とは、人の集合体

・時代は変わり、つながりがほしい地域と関わりたいという人たちがいる。それを活かすかそうでないかは、その地域次第となる。

○一般報告 ビジョンを活かしたまちづくり～「選ばれる山形市」を目指して～

【報告者】山形県山形市長 佐藤 孝弘 氏

魅力的な地域資源を有する山形市だが、多種多様な都市機能を担う宿命を負っている。そうした山形市が選ばれるまちとなるためには、市として明確な将来ビジョン（具体的な施策）を展開することが重要

2大ビジョン「選ばれるまち」となるための基本的な考え方「健康医療先進都市」「文化創造都市」

・「健康医療先進都市」

－「歩くこと」をベースにした健康で暮らしやすいまちづくり－

健康寿命の延伸 保健所内にシンクタンクを設置 健康ポイント事業 SUKSUK(スクスク) スマートフォンアプリを活用し歩数によって「健康ポイント」がたまり、抽選で特産品を当たる。

－「公共交通の充実」による徒歩の補完－

令和4年度 山形市Ma a S元年 自家用車に頼らなくても公共交通を利用することで、誰もが快適に移動できる環境の実現を目指し、公共交通ネットワークの構築や乗り換え場所となる交通結節点の整備に取り組む。市職員にもノーマイカー通勤を本格的導入しており、県内自治体初となる「エコ通勤優良事業所認定」を取得 鉄道駅・路線バス等の公共交通がない地区ではたくしーを活用した新しいコミュニティ交通のモデル事業を開始 電動アシストタイプのシェアサイクルの導入 サイクリングロードのさらなる整備を進めている。

・「文化創造都市」

－文化芸術活動を通じて持続的発展を目指す－

山形国際ドキュメンタリー映画祭は30年以上前に市民の手づくりによる映画祭として誕生し、その中では世界で確固たる地位を築き上げた。これらの文化遺産に関わることで新たな価値を創造する「文化創造都市」の概念を広く市民と共有すべく「山形市文化創造都市推進条例」を制定し、令和4年4月より施行。同年9月には文化創造都市の拠点として「やまがたクリエイティブシティセンターQ1」オープン

ここから山形市の文化芸術をはじめ、食、伝統工芸など多彩な地域資源を磨き上げ、新たな産業や商品、サービスを生み出し、地域経済の発展と、中心市街地の活性化につなげていく。

以上のように将来ビジョンと結び付けた各種政策を展開した結果、まちが向かうべき方向性がはっきりし、市民や企業が連動して同時多発的に様々な取り組みが進むという現象が起きて

いる。対外的な発信も強めることで山形市が何を目指しているのかということを知りたい、その方向性に沿った人材が集うことにより、結果として「選ばれたまち」になっていくと考えている。

#### ○一般報告 「交流の産業化」を支える景観まちづくり～長崎市景観専門監の取り組み～

【報告者】一般社団法人地域力創造デザインセンター代表理事 高尾 忠志 氏

漁業、炭鉱業、造船業など長崎市の地域経済を支えてきた産業が縮小し、自治体でもトップクラスの人口減少がしてきた。その背景からまちづくりの戦略として「交流の産業化」を掲げ、観光交流産業を新しい基幹産業として位置付けている。

##### ・長崎市景観専門監の導入

「100年に1度のまちづくり」と呼ばれる、大規模な事業によってまちを大きく更新する時期を迎えている。景観専門監に与えられたミッションは、①長崎市が行う公共事業のデザインの指導と管理②長崎市職員の育成の2点 「個々の公共事業によって長崎のまちに『価値』を創造すること」をミッションとしている。

##### ・時代が求める価値とは「マズローの欲求5段階説」

- 1.生理的な欲求
- 2.安全の欲求
- 3.社会的欲求（コミュニティや組織に認められる）
- 4.承認欲求（他者に認められる）
- 5.自己実現欲求（自分に認められる）

安心・安全なまちだけでは人は集まってこない。

##### ・価値創造に向けたデザインマネジメント

出島表門橋、まちなか夜景景観整備、鍋冠山公園展望台など、協議会等を含めて100を超える事業を監修してきた。

##### ・地域の価値創造を目指す行政組織が乗り越えるべき課題3点

- 1.事業の「縦割り」に関する事—個々の事業目的の最大化や最適化が積み重なっても全体として良くならない
- 2.「時間」に関する事—段階が進むにつれて担当部署が変わるし、担当者も人事異動によって変わってしまうこと
- 3.「人材」に関する事—職員は限られた予算や工期、維持管理の都合、補助金制度による縛り、議会や庁内に対する説明責任など、統制力の高い環境にあり、住々にして価値を創造し、創造する意識が欠如

・地域が迎えている課題は、これまでの縦割りの組織体制による分野ごとの施策では到底太刀打ちできない。縦割り制度のなかで、分野の境界を越えている地域が、より良い地域になっていく。まちづくりを行うのは人であり、特に自治体職員はそのハブを担う重要な存在である。

## ◎所感

高田氏においては、ジャパネットたかたの創業者である父親から会社を受け継ぎ、時代に属した従業員の働き方改革—「徹底する」仕組み。勤務ルール改革、休日改善、働き方の多様性。福利厚生充実—会社が社員のランチをプレゼントなど。断捨離の実施—（デスクに不要な書類を置かない）フリーデスク化により備品スペースの設置。ノー会議タイム導入—当時は会議ばかりしており効率改善など会社独自の改革を自ら行ってきた経緯も話された。勿論、会社にとって利益追求できるからこそ事業拡大をしてきたことですが、それにより地域活性化につながることは最善のこと。そうしたこともふまえ、今後のプロジェクトが推進していくこと期待できる。

田上長崎市長においては、近年、人口減少がこれほどまで進んでいたことは知らなかった。長崎市には古い歴史を持ち観光の宝庫。価値をみつける、価値に気付く、また新たな創造に価値を生み出すことでまちの魅力がアップすることを学んだ。田中氏においては、関係人口を増やす施策（3本柱）。新しいものを生み出すのではなく如何に繋がりを持たせるのかが印象的となった。佐藤山形市長は、まちの方向性（ビジョン）を紹介し、我がまちでもできそうな現実的な施策が参考となった。長崎市景観専門監の取り組みを報告した高尾氏。職員の育成とともに人材育成、縦割りの行政組織体制を分野融合多型の成果を出しており、非常に意義深い仕組みだと感じた。

## ◎第2日 10月14日（金）

### ○パネルディスカッション

【テーマ】個性を生かして「選ばれる」まちづくり～何度も訪れたい場所になるために～

【コーディネーター】東京都立大学法学部教授 大杉 覚 氏

【パネリスト 5名】ゆとり研究所所長 野口 智子 氏

山梨大学生命環境学部教授 田中 敦 氏

NPO 法人長崎コンプラドール理事長 桐野 耕一 氏

岐阜県飛騨市長 都竹 淳也 氏

兵庫県丹波市長 藤原 保幸 氏

<野口氏>雲仙人プロジェクト 資源を活かして小さなことを

人材—一人ひとり育てていかなければ進まない。

一人演説する人、自分の意見が正しいと思っている人、足を引っ張る人、色々な人がいるのはどの地域も同じことで、関係人口にしても誰でも良い人とは限らない。そこを気を付けないと訪問者は2度と来なくなる。近隣にいても意外と皆つながっていないことが多々あり、人の繋がりが知っているようで知らないことが多い。人のレベルを上げるには、世話をし過ぎないこと。人材育成は、本人を磨くことから始まる。時間もかかるし、それまで行政は我慢しないとイケない。人材育成はやりながら育てていくが、いつ・誰かを決定するときはみんなの前で

行う。ともに苦勞（汗・辛い思い）することで繋がりができる。

#### <田中氏>ワーケーションの意味と拡張と変異

ワーケーションとは仕事(ワーク)と休暇(バケーション)を組み合わせた造語。まちなかオフィスカフェテラス。ワーケーション市場は拡大が続いてくる。企業と地域との繋がりがワーケーションの今後の課題となってくる。

#### <桐野氏>「まち歩き」で見つけたまちのつくり方

長崎旅博覧会終了後に観光客が減少し危機感を持った。2003年に長崎市と市民によって観光復活をかけて「長崎さるく」を市民が企画 長崎の自慢を長崎市民が行う

まちを歩くことはまちをみつめることーまち歩きはまちづくりにつながる

失敗は数々あるが、もとめることは「交流」これが最も大事である

#### <都竹飛驒市長>

人口22,661人 高齢化率40.06%で全国の倍のスピードで人口減少「地域外の人との交流」ポイント アニメ「君の名は」が大ヒットによる影響、飛驒はその聖地と言われる。飛驒氏市ファンクラブ約1万人 ファンの集い 関係人口の増加 関係案内所「ヒダスケ」ー農村の景観を保全する活動や農家等の農作業、クラウドファンディングの支援など 関係人口は移住していない。

7800万円(約3000件)のふるさと納税など

#### <藤原丹波市長>

清酒発祥の地 人口198,488人 丹波空港のある都市 誇りと愛着の醸成

地域活動に喜びをもってもらわないとやれない 南野陽子等が大使に

地域活動のデジタル化

#### ◎所感

2日目はパネリスト5名でのディスカッション。それぞれの取り組みを紹介。まちづくりは人材育成が如何に大切なのかを訴えていた。そのためのプロセスとして行政としてどう行動していくべきか。数々のヒントとなるべきものがあった。まず自分のまちを歩くこと、そしてそれらの価値を見つけること。そのまちまちには定住者にも気づいていないことがたくさんあること。交流が大切なこと。関係人口を増やしていくこと。行政は我慢を強いられること。印象に残ることは、野口氏に人材育成といっても簡単ではなく、最も現実味があったトークであった。